

出先地でのアルコール検査方について議論！

1月28日、名古屋地本は「申第3号アルコール検査機器変更に関する申し入れ」について会社と議論しました。名古屋地本は乗務員の出先でのアルコール検査方の変更及び点呼要領変更についてサービス労働の強要であると認識し申し入れしてきたものです。以下、会社回答と主なやりとりです。

1. アルコール検査は業務なのか、違うのか明らかにすること。

【回答】アルコール検査は業務である。

2. アルコール検査を出勤点呼前に行う場合は労働時間として付加すること。

【回答】そのような考えはない。

3. 10月16日から突如、出先点呼で使用するアプリが訓練で説明することなくBuddycomに変更された。現場では使用方について戸惑う声が多数あった。重要な変更については訓練等で周知すること。

【回答】適宜適切に対応している。

4. 現在使用しているBuddycomは扱い辛く時間を要する。機器の改善をすること。出先の出勤転呼の準備時間を5分増とすること。

【回答】出先での点呼時間を5分増とする考えはない。機器の改善については状況に応じて対応していく。

《主な議論》

組合: アルコール検査は業務と回答されたが、出勤点呼前にアルコール検査を行うのはおかしくないか。

会社: 検査機器変更後からだが問題ないと考えている。

組合:対面点呼の場合、出勤点呼と同時にアルコール検査するが出先での電話点呼は出勤点呼前にアルコール検査を行うと点呼要領が改正された。例えば6時出勤ならそれまでに出勤すれば良いが5時59分にアルコール検査を開始すれば出勤点呼は6時以降になり出勤遅延となる。

会社:6時までアルコール検査をしてもらえれば出勤点呼は6時を超えても良い。

組合:出勤点呼が6時2分とか3分でもいいのか。

会社:そうである。

組合:現場での認識は違う。出勤時刻10分切れば当直は心配して電話を掛けてくる。しかも現行使用しているBuddycomは扱い辛く時間を要するし点呼が輻輳すると他の社員が写っている。

組合:以前、使用していた機器は1回で点呼とアルコール検査ができた。現行はアルコール検査も顔認証から始まり時間が掛かる。Buddycomについても以前の物より時間を要する。

会社:機器の改善の意見は伺っておく。

組合:1つのアプリにまとめるように要求する。

以 上